

北村朋幹さん応援レポート

トッパンホール・エスポワールシリーズ

北村朋幹vol.3 -solo ~ふたたび」

2016年4月12日(火) トッパンホール

“シリーズ最終章。こだわりぬいたプログラム”



「北村朋幹 Vol.3 - solo ふたたび」。
トッパンホールが展開する<エスポワールシリーズ>、3回目となる今回は、北村さんのシリーズ最終回でもある。

<エスポワールシリーズ>は、トッパンホールがホールの運営コンセプトである「若手の発掘・育成」の一環として展開するシリーズ。優れた才能と実力を備え、今後の活躍が期待される若手演奏家とホールが共同で企画しながら、数年にわたって3回の演奏会を開催し、アーティストの才能と実力、未来への展望などを広い視点から紹介する。若い演奏家が更なる実力を開花させるチャンスであり、また真の音楽家としてのポジションを確立させる機会と位置付けられている。

北村さんは<エスポワールシリーズ>10人目のアーティストとして登場。第1回は2013年10月のソロ・リサイタル、第2回は2014年10月のヴァイオリニスト:ダニエル・ゼペック氏、チェリスト:オリヴィエ・マロン氏との室内楽と、これまでに2回の演奏会を開催してきた。そして今夜、シリーズ3回公演の最終章「soloふたたび」を迎える。



トッパンホール外観

コンサート・フライヤーには、『成長著しい俊英が挑む、シリーズ最終章』の文字。このシリーズに臨むにあたり、「・・・思い悩み、頭をめぐらせ、ディスカッションを繰り返し、深い意図と志をもって取り組んできた・・・」と紹介されている。最終回に賭ける北村さんの思い入れがうかがえる。

『・・・心惹かれる作品というのは数多くあるが、圧倒的にドイツ(語圏)のロマン派の作品が多いことに気付く』という北村さん。本日のプログラムは、オールドイツ語圏プログラム。ベートーヴェン、ブラームス、リストの最晩年作品から、シェーンベルク、ブラームスの若い時代の作品と、対称的な作品を並べたこだわりぬいたプログラム。

留学先のベルリンから帰国し、数日間にトッパンホールで満足いくまでリハーサルを行ったという北村さん。「・・・音楽を純粋にとらえて、全てを肯定できた時に生まれる感動を、素直に音に変換したいと感じています」との言葉も。

会場は、北村さんのシリーズ最終回を聴き逃すまいとする聴衆の方々に埋まっている。



心惹かれる音楽が生まれた時代へ思いを馳せて



演奏会が始まる。

最初の曲はベートーヴェンのピアノ曲「6つのバガテル」。これは12月の財団コンサートでも演奏された曲。巨匠ベートーヴェンの生涯最後のピアノ作品である。

このシリーズ3回の柱をなしてきたベートーヴェンへの取り組み。探究の成果が集結されたかのような演奏が披露される。

2曲目はシェーンベルク。詩情的に柔軟に。

そのまま前半ラストの曲、ブラームスの幻想曲集へと続く。美しく、色彩感あふれる音色に客席もぐつと惹きこまれたまま。



後半はリストの曲から。

濃密なのに柔らかく、しなやかな音色。心にしみわたるような温かさ、心を揺さぶるような力強さ。

場内はすっかり北村さんの世界。息を呑む客席。拍手の間をおかずに、ぐいぐいと演奏が進められていく。

プログラムラストの曲、ブラームスのピアノソナタ第3番、ブラームスが残した最後のピアノ曲が始まる。

『・・・音楽の流れに、ただ身をゆだねて演奏して、自分の理性など簡単に凌駕するこの曲の“濃厚なロマンティシズム”に、新しい挑戦を助けてもらいたいと考えて選びました』との言葉通り、内側から想いが滲み出るような演奏。情熱的でありながら端正な音楽に圧倒される。

弾き終えた北村さんが椅子から立ち上がると、惹きこまれていた客席のみなさんも我に返ったかのように。大きな大きな拍手が送られていた。



アンコールに応じて弾いてくれたのは、ショパン「マズルカイ短調」。3拍子のリズムも軽やかに。そして、鳴り止まぬ拍手にもう1曲弾いてくれたのは、モンポウの「歌と踊り」。

本プログラムの重厚さとは対照的な、意表をつくアンコールの選曲は、終演後のホワイエでも話題となっていた。

演奏中の写真3枚は
撮影：大窪道治氏／提供：トッパンホール

深い解釈のもと、弾きとおした渾身のプログラム



終演後はサイン会。先日発売されたばかりのソロCD第3弾『黄昏にーブラームス/リスト/ベルク作品集』を手にしたファンの方々が長い列を作る。

「いやー、素晴らしかった」「彼はすごいね。前々回、前回と、どんどん変化しているね」「ますます目が離せないな」と会話が飛び交う。

サイン会のあとは、門下の後輩のみなさんと思われる、たくさんの若き女性陣に囲まれての記念撮影。「北村先輩、素晴らしかった」と興奮さめやらぬみなさんで華やかなホワイエ。財団もお世話になっている伊藤恵先生、44回生桑原志織さんの姿も。



<コンサート概要>

◆出演

北村朋幹(ピアノ)

◆プログラム

L.V.ベートーヴェン: 6つのバガテル Op.126
A.シェーンベルク: 6つの小さなピアノ曲 Op.19
J.ブラームス: 幻想曲集 Op.116
F.リスト: 悲しみのゴンドラ第1 S.200/1
J.ブラームス: ピアノソナタ第3番へ短調 Op.5

アンコール曲

ショパン: マズルカ第13番イ短調 Op.17-4
モンポウ: 「歌と踊り」より第1番

楽屋で北村さんに話を聞くことができた;

ーすごいプログラムでした;

「・・・全部弾きとおすのが大変なプログラムでしたので、とりあえず弾ききることができて、ほっとしています」

「・・・細かいことなど、悔しいことはもちろんありますが、なんとか生き延びたかと、今はそういう思いです」

「・・・思い返せば尽きないのですが、この日にかけて、このプログラムに向けて、相当準備をしてきたということは、自信を持って言うことができます。今回は、自分を許してあげられる瞬間もあったかなと感じています」

渾身のプログラム、弾ききるために、どれほどのエネルギーが必要とされていたことか。



「・・・どの曲も、おそらくこの先も弾き続けていこうと思われる曲。『この次に取り組む時に自分はどうに感じるのだろうか?』との思いもあります。

今の自分にできることは、とりあえず全て、今日の演奏に投影することが出来たのではないかと思います」

作品と真摯に、誠実に向き合い、深い思索のもと、今の北村さんの世界を聴かせてくれた。とても濃密な時間であった。

ーベルリン芸術大学、留学5年目を迎えている北村さん、今年度は?;

「・・・曲を勉強するには時間が必要です。苦しいこともたくさんありますが、自分のために割いた時間は自分自身を高めてくれます。それは本当に贅沢なことです」

「・・・音楽家として生きていくということ、それは贅沢な苦悩と贅沢な喜びを知ることになり、それについては、本当に感謝し続けたいといけなと感じています」
「・・・でたらめなことをしない、楽な方に流れない、これまでもそうしてきましたが、これからもそういうふうに、そういう一年にしていきたいと思います」

スティックという言葉が似合う北村さん、思い入れたプログラムを弾き終えた達成感か、穏やかな、いい表情で話してくれる姿が印象的であった。

北村さん、素敵な演奏でした。また聴かせてください!



終演後、このシリーズを企画されているトッパンホールの西巻氏からも熱いエール

【コンサート・フライヤー(表)】



15th
TOPPAN HALL
since 2001

成長著しい俊英が挑む、
シリーズ 最終章。

北村朋幹
Tomoki Kitamura Vol.3 - solo ふたたび
piano

ベートーヴェン：6つのバガテル Op.126
Beethoven: 6 Bagatellen Op.126

シェーンベルク：6つの小さなピアノ曲 Op.19
Schönberg: 6 Kleine Klavierstücke Op.19

ブラームス：幻想曲集 Op.116
Brahms: Fantasien Op.116

リスト：悲しみのゴンドラ(第1編) S200/1
Liszt: La lugubre gondola I S200/1

ブラームス：ピアノ・ソナタ第3番 へ短調 Op.5
Brahms: Sonate für Klavier Nr.3 f-Moll Op.5

主催：トッパンホール

2016 4/12 火 19:00開演 トッパンホール
Tuesday 12 April 2016, 19:00 TOPPAN HALL

チケット料金：4,500円 学生2,000円 全席指定 | チケット発売：2015年12月10日(木) [会場：12月5日(土)]

TOPPAN HALL
SINCE 2001
〈エスポワール シリーズ 10〉

北村朋幹

Tomoki Kitamura Vol.3—solo ふたたび
piano

早いもので、北村朋幹の「エスポワール」が最終回を迎える。本シリーズ以外でも主催公演への出演が多い北村のことだから、「終わる」と言っても臥立っていくという感じはまったくないのだが、一つの大きな節目になることは間違いない。というのも、「エスポワール シリーズ」に臨むにあたって、北村朋幹ほど、いろいろと思い込み、扉を巡らせ、アিসカッションを毎回繰り返して、深い意図と志をもって取り組んできたアーティストはいなかった。最終回に臨む彼の思い入れはひとしおに濃い。

そして、シリーズスタートと連動して開始された、ベートーヴェンへの集中的な取り組みと研究は、ピアニストとしての北村の体力を劇的に向上させ、可能性を拓けた。加えて音楽家、アーティストとしての北村の歩む道にも大きな変化を与えたように思う。その一つの証は、今回、メインプログラムにブラームスのソナタ第3番へ短調を据えたこと。こんなことは、このシリーズが始まった頃には、北村本人も含め、周りの誰も予想だにできなかった。

コンサートは、ベートーヴェン短調のピアノ曲Op.126の《6つのバガテル》で開始される。ミニアチュームな、しかしおそろしく深い内容を含めた世界。これに愛するブラームスの《短曲集》Op.116が組み合わされる。ベートーヴェンとブラームスの晩年の心象風景、そのやや歪い世界観と差異を際立たせるかのように、あいだにシューベルトの《6つの小さなピアノ曲》を挟んできた。ここまでは、まさにKitamura World、彼ならではの音楽観、世界観だ。

ところが後半は、ベートーヴェンに離れ、遅れて生まれきたことを恨みながら、彼への挑戦状のように書き綴ったブラームス初期のピアノ作品前（作15までのうち、4曲がピアノ曲、3曲がソナタ）の中の最高傑作、《ソナタへ短調》Op.5に挑む。20歳のブラームスの、むせぶような濃厚なロマンティズムに満ちた曲。こういうタイプの曲は、以前の北村なら敬遠していたであろう。大きな変化だ。ベートーヴェンの現病からの脱皮をも予感させるかのような濃厚なピアニズムを前に、北村はどのように舞うのか。契機を受けた時から想像は駆け回り（それは彼自身も同じだったように思う）、筆々な涙を予想したりした。これだけしっかりとベートーヴェンと向き合い、得意とするシューマンをはじめドイツロマン派の音楽にその成果を刻みはじめているいまの北村ならではのOp.5が輝けるように思う。プログラム決定から本番まで1年と数ヶ月の時の経過の中で、北村の演奏は大きく進化している。

2016年4月の時点でも、さらにどのように飛躍するのかを楽しみに待ちたい。

トッパンホール企画制作委員 西條 正史

成長著しい俊英が挑む、
シリーズ最終章。



トッパンホールチケットセンター 03-5840-2222
ウェブサイトからも申し込めます。 <http://www.toppanhall.com/>
チケットぴあ 0570-02-9999 / ローソンチケット 0570-000-407
東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650

トッパンホールクラブ会員の優待割引、学生および学生券は、トッパンホールチケットセンターのみの扱いとなります。
*学生券には席の指定がありません。 *本誌発行のご案内を随時いたします。
*応募サービス【電子チケット】は、公演日1週間前までにイベント経費・マージン 0120-798-222
【10:00~12:00、13:00~17:00（土日祝祭日）へお申し込みください】

※やむを得ず、公演・出演者などに変更がある場合がございます。あらかじめご了承ください。
※開演は開演の30分前となります。

交通のご案内

江戸川橋駅 地下鉄有楽町線(4番出口)より徒歩約8分
池田橋駅 J丸根武蔵(東口)、地下鉄有楽町線、東西線、南北線、大江戸線(B1出口)より徒歩約13分
浅草橋駅 地下鉄丸の内線、南北線(1番出口)より徒歩約10分
都営バス [上野] [0884] 「大倉」または「東五軒町」下車徒歩約3分
※地下鉄車庫をご利用いただけます。(ホームご乗降場を御確認ください)

トッパンホール 〒112-0005 東京都文京区水道1-3-3 TEL:03-5840-2222 Fax:03-5840-1515
E-mail:info@toppanhall.com <http://www.toppanhall.com/>

木のぬくもりある「トッパンホール」をよりお楽しみいただくために。

TOPPAN HALL
CLUB

会員募集中

チケットお申し込みと同時にお手続きもできます。

ご入会手続きは入会申込書を各記事掲載所にご郵送、
またはウェブサイトからのお申し込みもできます。

トッパンホールクラブ事務局

〒112-0005 東京都文京区水道1-3-3
TEL:03-5840-2222 <http://www.toppanhall.com/club/>

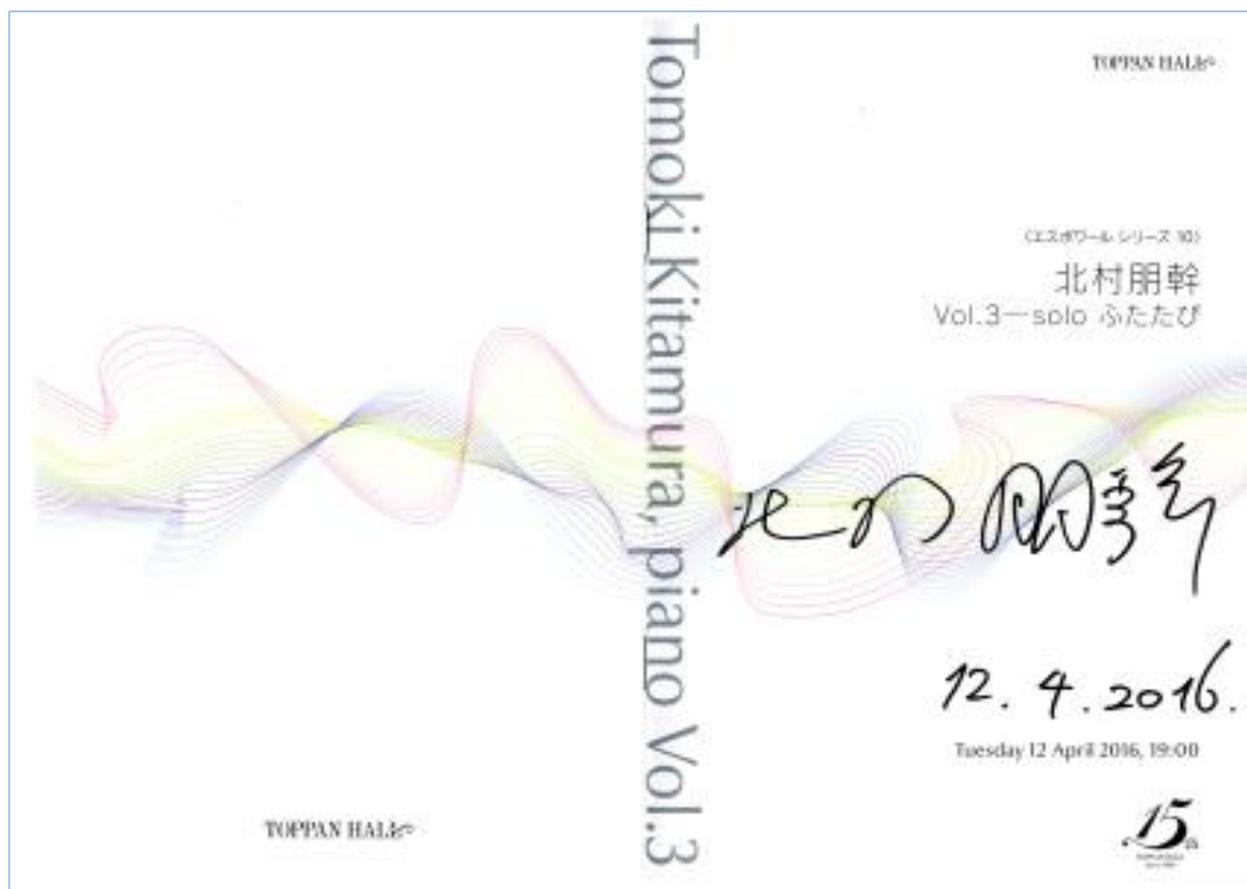
【特典】

- 主催公演チケット優先予約
 - 主催公演チケット料金の優待割引
- | | | |
|---------|--------|-------------|
| ゴールド会員 | 20% 割引 | [年会費5,000円] |
| レギュラー会員 | 10% 割引 | [年会費3,000円] |

【その他の特典】

チケット配送手数料無料や公演情報の送付など、トッパンホールのコンサートをお楽しみいただける特典をご用意しております。

【コンサート・プログラム(表紙・中表紙写真)】



【コンサート・プログラム(プログラム、北村さん紹介ページ)】

プログラム

program

ベートーヴェン: 6つのワルツ Op.126

Beethoven: 6 Ragellen Op.126

- Nr.1 G-Dur Andante con moto. Cantabile e piacevole
- Nr.2 g-Moll Allegro
- Nr.3 Es-Dur Andante. Cantabile e grazioso
- Nr.4 h-Moll Presto
- Nr.5 G-Dur Quasi allegretto
- Nr.6 Es-Dur Presto - Andante amabile e con moto - Presto

ショーンベルグ: 6つの小さなピアノ曲 Op.19

Schönberg: 6 Kleine Klavierstücke Op.19

- I Leicht, zart
- II Langsam
- III Sehr langsam
- IV Rasch, aber leicht
- V Etwas rasch
- VI Sehr langsam

ブラームス: 幻想曲集 Op.116

Brahms: Fantasien Op.116

- I Capriccio, Presto energico
- II Intermezzo, Andante
- III Capriccio, Allegro passionato
- IV Intermezzo, Adagio
- V Intermezzo, Andante con grazia ed intimissimo sentimento
- VI Intermezzo, Andantino tenacemente
- VII Capriccio, Allegro agitato

休憩

Intermission

リスト: 悲しみのゴンドラ 第1 S200/1

List: La laguna gondola I S200/1

ブラームス: ピアノソナタ第3番 へ短調 Op.5

Brahms: Sonate für Klavier Nr.3 h-Moll Op.5

- I Allegro maestoso
- II Andante espressivo
- III Scherzo, Allegro energico
- IV Intermezzo/Rückblick, Andante molto
- V Finale, Allegro moderato marcato

主催: トッパンホール

特別協賛: 株式会社 東急建設

プロフィール



北村朋幹 ピアノ

Tomoki Kitamura, piano

1991年愛知県生まれ。愛知県立明和高等学校音楽科を経て東京芸術大学に入学。2011年よりベルリン芸術大学ピアノ科および音楽科にて研鑽を積む。ライナー・ベッカー、伊藤恵、エヴァ・ポフウォツカにピアノを、ミッツィー・メイヤーソンにチェンバロおよびフォルテピアノを師事。

05年第10回浜松国際ピアノアカデミーに参加、同コンクールにて第4位。同年第3回東京音楽コンクール第1位ならびに審査員大賞(全部門共通)を受賞。06年第6回浜松国際ピアノコンクール第3位。08年第9回シドニー国際ピアノコンクールにおいて、第5位ならびに3つの特別賞(シューベルト作品、コンクールのためのオーストラリア人作曲家による新曲作品に対する最優秀演奏賞を含む)を受賞。15年リーズ国際ピアノコンクール入賞。

05年水戸市佐川文庫多目的ホールにて初めてのリサイタルを開催。以後日本各地でリサイタルを行う。07年より「東京の聲」音楽祭や中之島国際音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン等の音楽祭にしばしば招かれている。09年にはフランス、ドイツでもリサイタルを行った。これまでに東京交響楽団、読売日本交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、シドニー交響楽団など国内外のオーケストラと多数共演している。

11年、ソロ・デビュー盤となる「遙かなる恋人に寄す—シューマン『幻想曲』からの展覧—」、14年「夜の肖像」をリリース。16年4月には、最新盤「黄昏に ブラームス、リスト、ヘルク作品集」(フオンテック)をリリースした。

トッパンホールでは、13年10月より全3回の〈エスポワール シリーズ〉に挑んでいるほか、〈ニューイヤーコンサート〉の常連としても、登場のたびに新たな魅力を次々に開花させている。